

三國シェフのふるさと 北海道の増毛



旧商家丸一本間家 国重要文化財



漁業でにぎわう増毛港

三國シェフの味覚を育んだ北海道 増毛町

増毛(マシケ)とは「カモメの多いところ」というアイヌ語から生まれた地名で、1706年(宝永3年)に松前藩により開かれました。豊かな水産資源に恵まれ、特に明治から昭和にかけてニシン漁で繁栄を続け、国の重要文化財である商家や最北の造り酒屋、旅館、小学校など、その時代を示す歴史的な建物も多く残っています。いまでも、甘えび漁やホタテ・鮭・カレイなどの漁業が盛んな上、日本最北の果樹園地帯でもあって、りんご・ぶどう・梨などの栽培が盛んです。また、暑寒別岳や雄冬海岸などの美しい自然が国定公園にも指定されています。



増毛町 HP：<http://www.town.mashike.hokkaido.jp/>